

# グラフで見る関西経済(2022年5月)

2022年5月26日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

# 今月の景気判断 ～持ち直しの動きが一服

## 【今月のポイント】

- 関西経済は生産、輸出が足下で減少するなど、全体として持ち直しが一服している。
- 生産(3月)は5ヵ月ぶりに減少。電子部品デバイス、電気機械、汎用・生産用・業務用機械など関西の主力業種で減少した。
- 実質輸出(4月)は2ヵ月連続で減少。中国向け輸出の減少が響いた。
- 賃金(3月)は3ヵ月連続で増加となり、持ち直しの動きがみられる。
- 公共投資(4月)は、新年度に入り前年比で増加となった。

項目	現状
景気全般	持ち直しの動きが一服(↓)
生産	持ち直しの動きが一服(↓)
輸出	持ち直しの動きが一服(↓)
設備投資	持ち直しの動きがみられる
雇用	弱い動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる(↑)
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	弱含んでいる
公共投資	増加している(↑)

注: ( )内は前月からの変化の方向

景気全般は、「持ち直しの動きがみられる」から下方修正(↓)

生産は、「持ち直しの動きがみられる」から下方修正(↓)

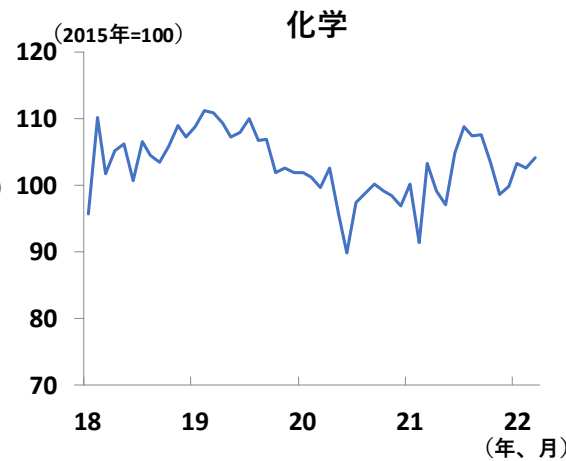
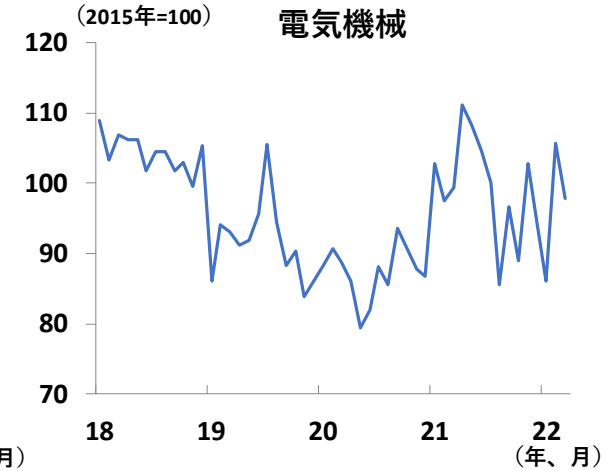
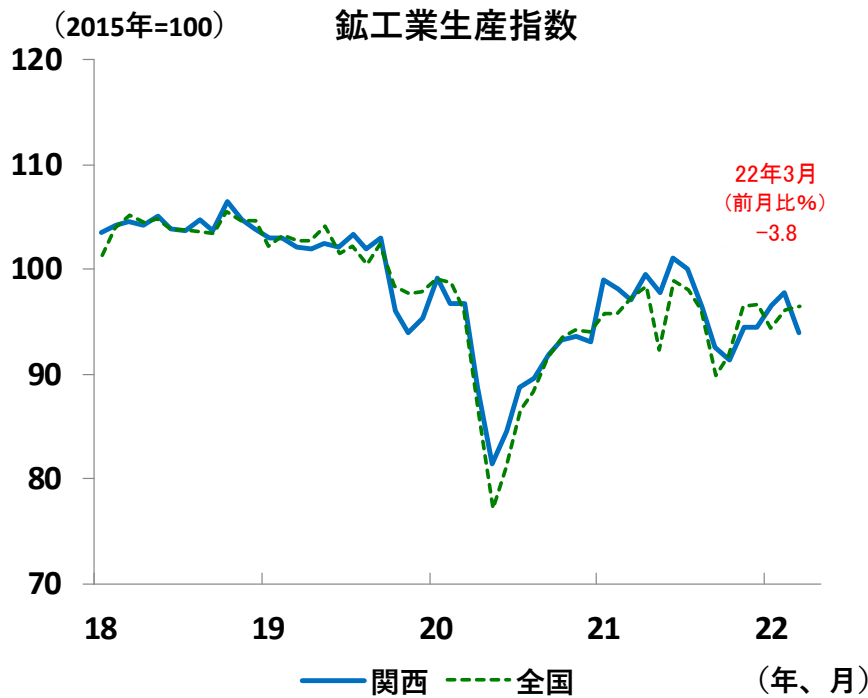
輸出は、「持ち直しの動きがみられる」から下方修正(↓)

賃金は、「弱い動きがみられる」から上方修正(↑)

公共投資は、「弱い動きがみられる」から上方修正(↑)

# 生産

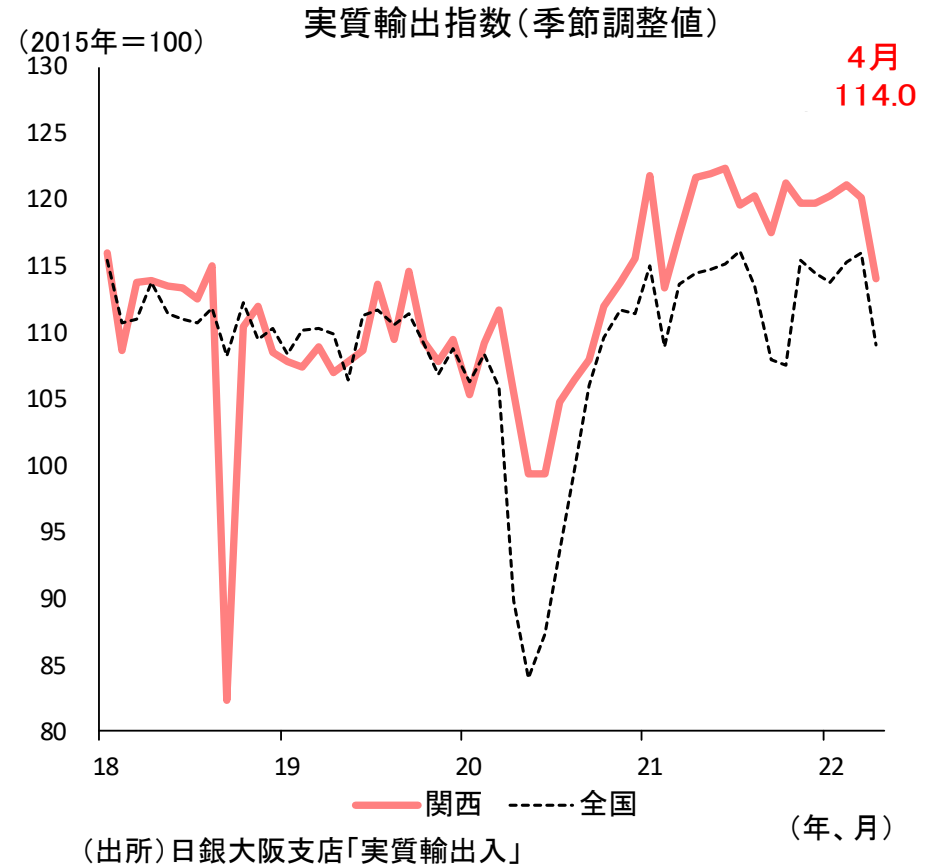
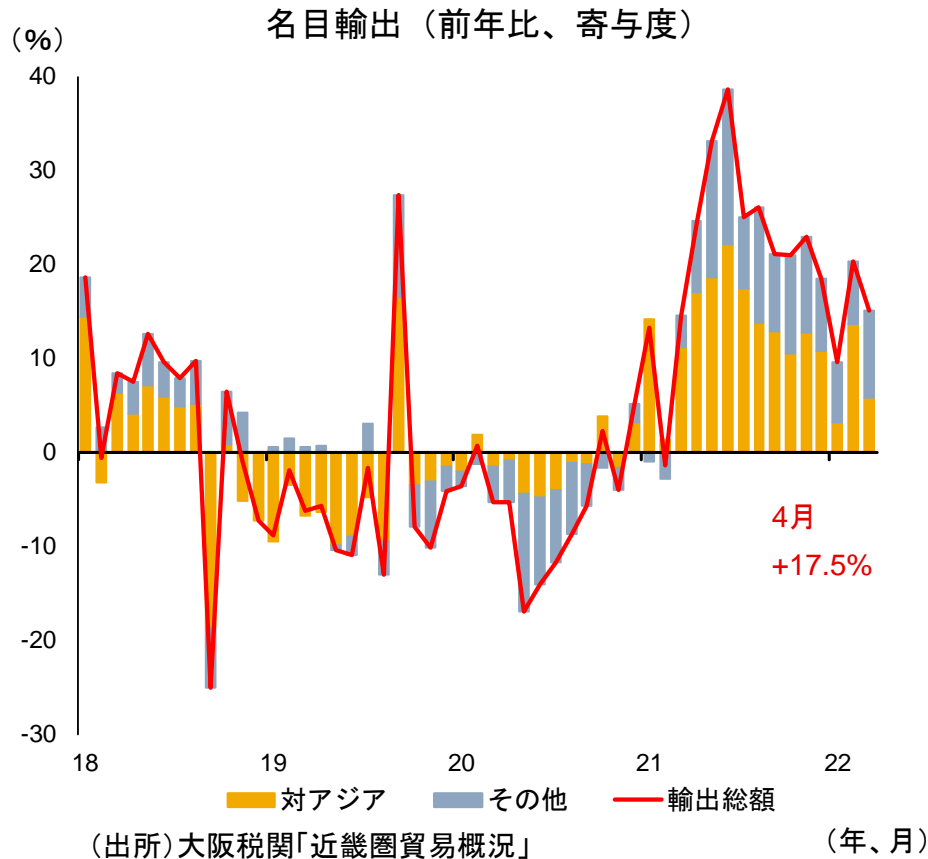
3月の鉱工業生産(関西)は前月比-3.8%と5カ月ぶりに減少。電子部品デバイス、電気機械、汎用・生産用・業務用機械などが減少した。関西の生産は、半導体不足等により持ち直しの動きが一服している。



(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

# 輸出

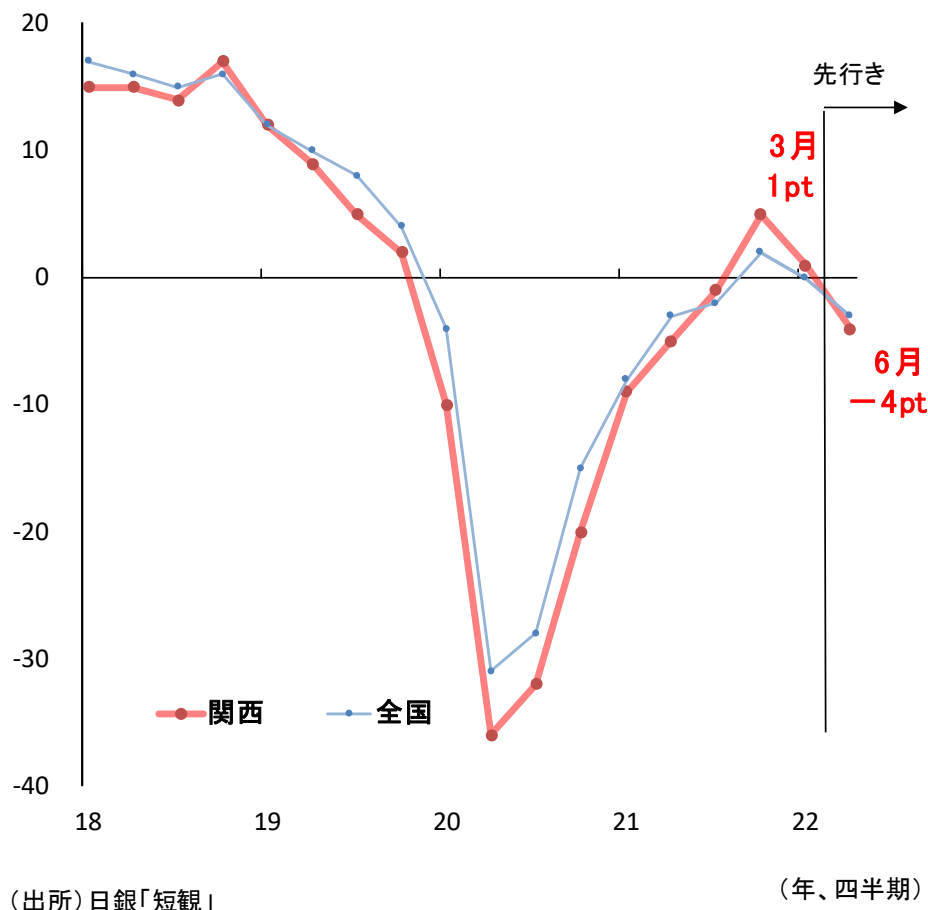
4月の名目輸出額は、円安、単価上昇の影響もあって前年比+17.5%と14ヵ月連続で増加。地域別では、アジア、米国、EU、その他のいずれも増加した。品目別では、非鉄金属、鉱物性燃料などが増加した。一方、4月の実質輸出(季節調整値)は前月比-5.1%と減少した。中国向け輸出の減少が響いたと考えられる。



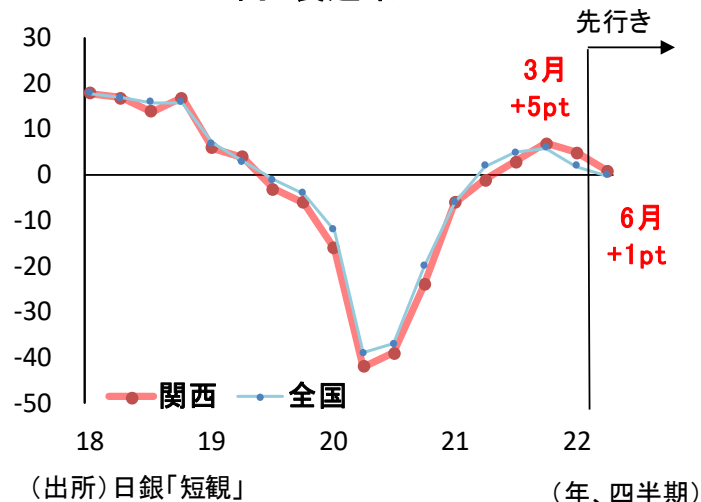
# 企業景況感(日銀短観) ※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査の業況判断DIは、全産業で+1ptと12月調査から悪化。製造業は+5pt、非製造業は-3ptといずれも悪化した(宿泊・飲食サービスが一段と悪化)。先行き(6月)については、全産業、製造業、非製造業いずれも悪化が見込まれている。

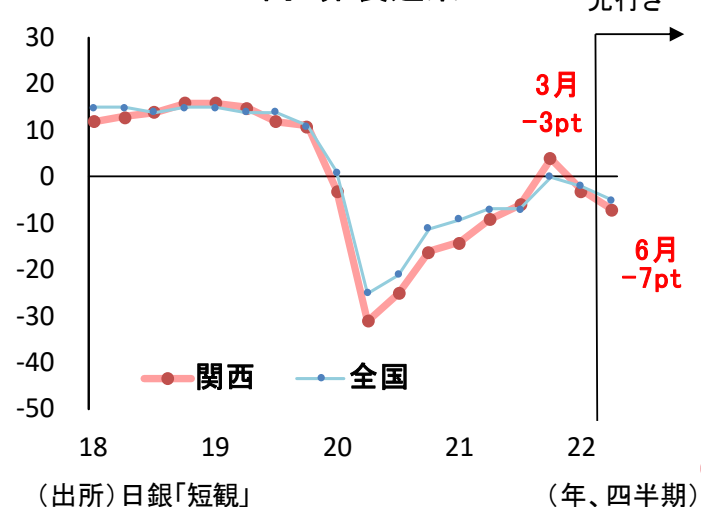
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



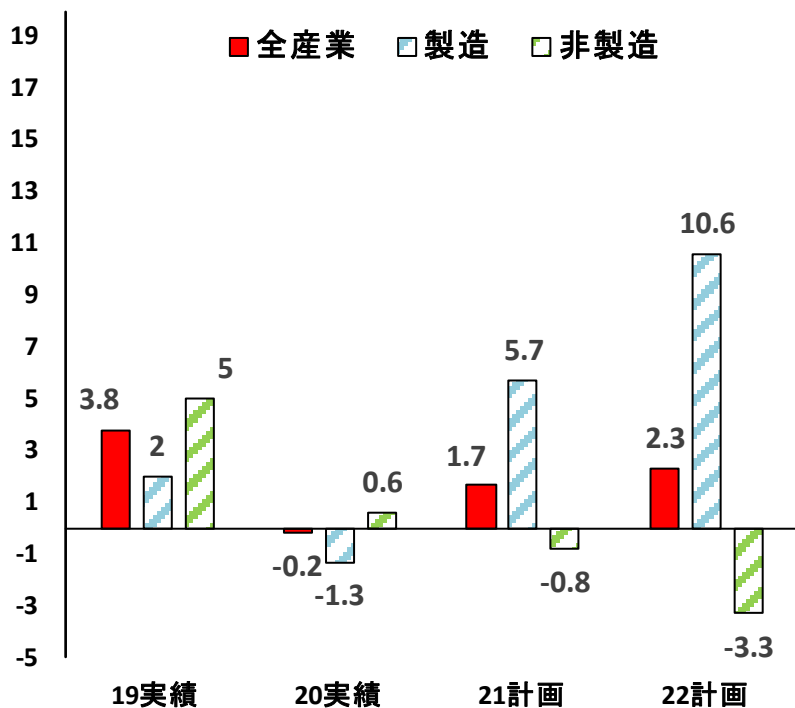
同 非製造業



# 設備投資※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査によると、21年度の設備投資(計画)は前年比+1.7%と増加が見込まれている。12月調査時と比べて、製造業、非製造業、全産業いずれも下方修正となった。22年度計画では、非製造が減少となるが、製造業(はん用・生産用・業務用機械など)が増加し、全体では増加が見込まれている。

(前年比、%) 設備投資実績・計画



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

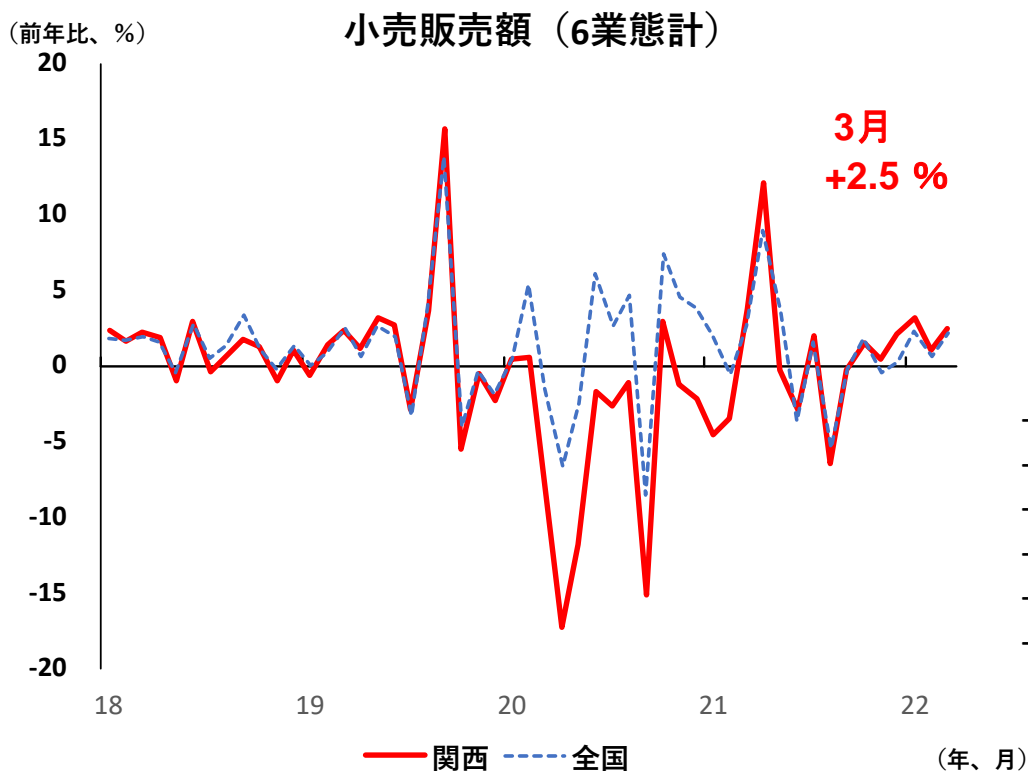
設備投資額(前年比%)

	20年度 実績	21年度計画		22年度 計画
		今回調査 ( 前回調査との差異 )	前回調査	
全産業	-0.2	1.7 ( -7.5 )	9.2	2.3
製造業	-1.3	5.7 ( -5.6 )	11.3	10.6
非製造業	0.6	-0.8 ( -8.7 )	7.9	-3.3

## 個人消費(小売売上、自動車販売)

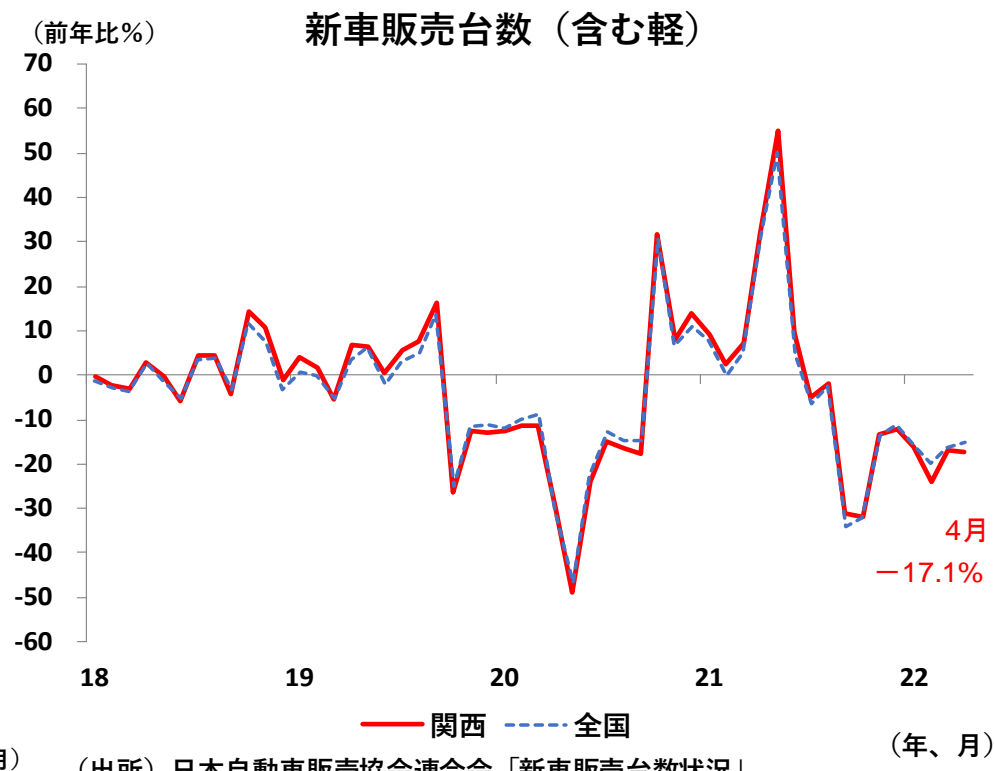
3月の小売販売額は前年比+2.5%と6カ月連続で増加した。もともと、コロナ前の2019年比では、インバウンドが戻らない中、-2.5%と減少している。先行きは、まん延防止等重点措置解除後の人流の戻りがプラス材料となる一方、物価上昇による消費抑制が懸念材料に。

4月の新車販売は、半導体など部品供給不足による生産調整の影響により、前年比-17.1%と10カ月連続の減少となった。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計



(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

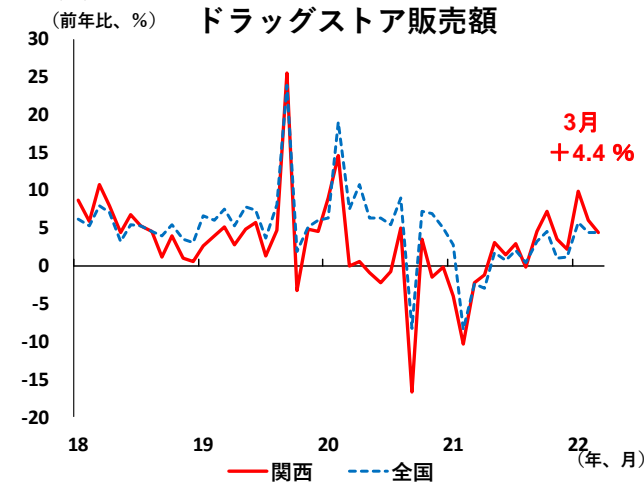
# 個人消費(業態別)

4月の百貨店売上(大阪)は前年比+41.3%と7ヵ月連続で増加した。前年が行動制限下であった反動で高い伸びとなったが、コロナ前の同月(2019年4月)では-16.8%と低水準。京阪神免税売上は、訪日外客の入国制限が続く中、低水準で推移している。

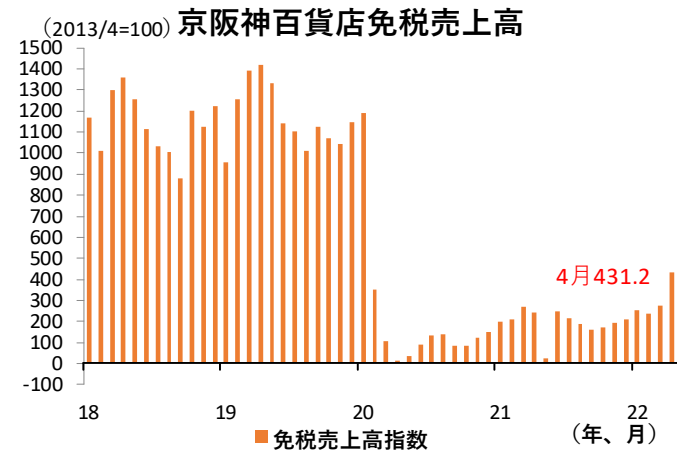


(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

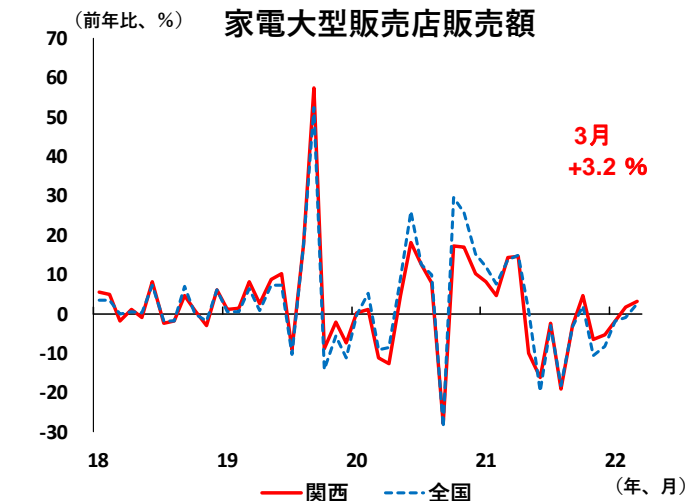
(注) 店舗調整後前年比



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 日銀大阪支店「百貨店免税売上(関西)」



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

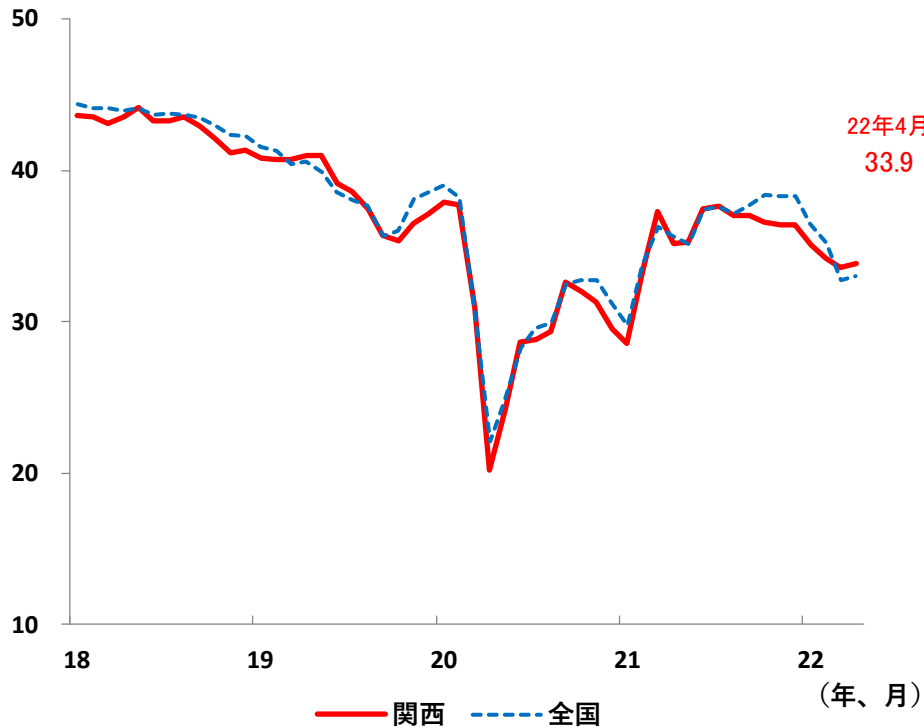


# マインド・景況感

4月の消費者態度指数(季節調整値)は33.9と4ヵ月ぶりに上昇した。

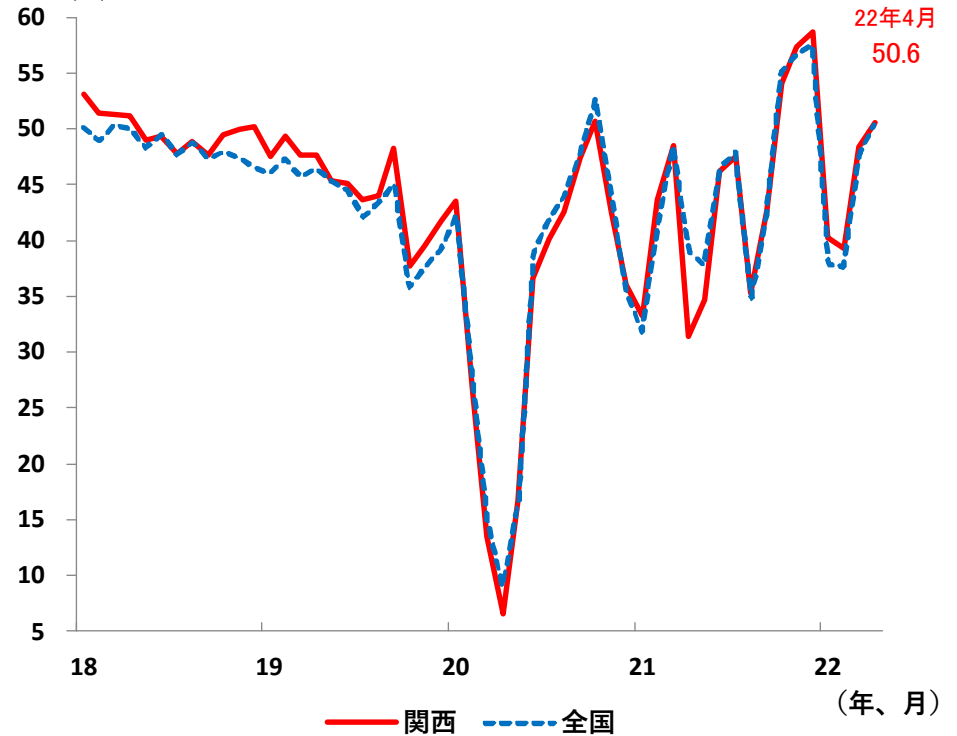
4月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、3月のまん延防止等重点措置解除後の人流の戻りにより、前月差+2.2ポイントの50.6と4ヵ月ぶりに上昇し、中立を示す50を上回った。

### 消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算  
(出所)内閣府「消費動向調査」

### 景気ウォッチャー調査 (現状判断)

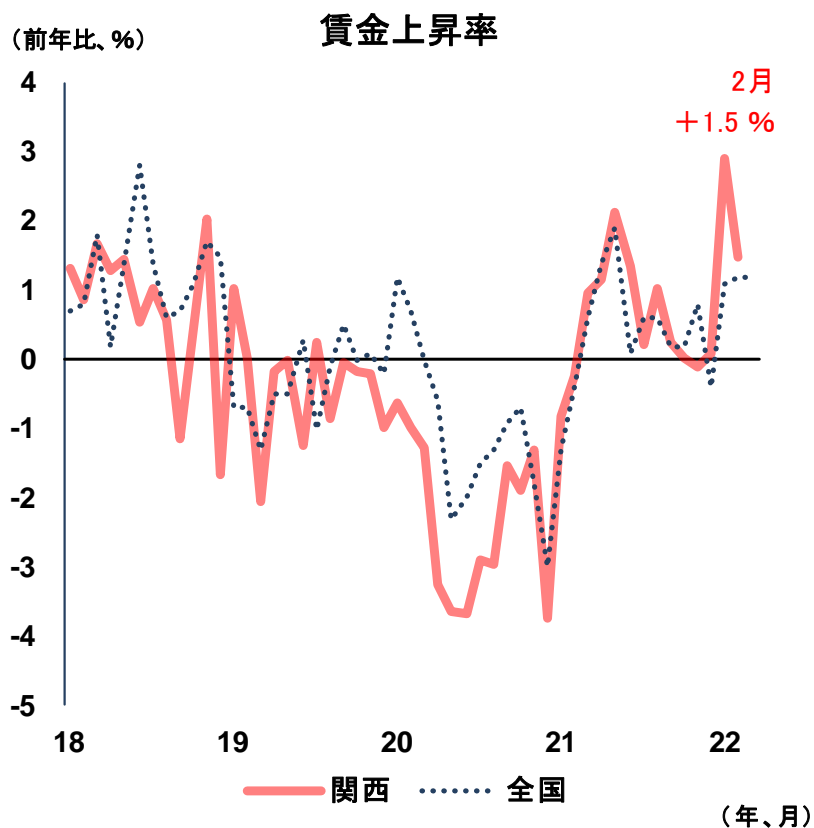


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

# 賃金・雇用

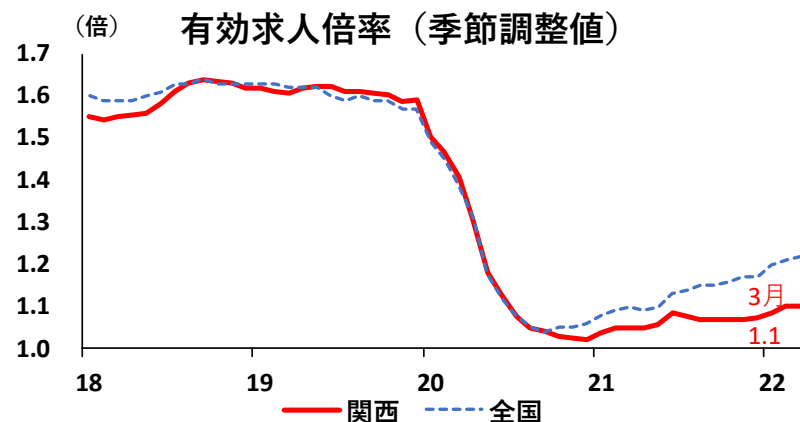
2月の名目賃金指数は前年比+1.5%と3カ月連続で増加。一昨年比でも+1.3%と増加した。

3月の有効求人倍率は1.10倍と前月と同水準。全国に比べ求職者数増加の割合が高く、求人倍率は低めで推移している。21年10-12月期の失業率は2.9%と前期と同水準、就業者数は増加した。

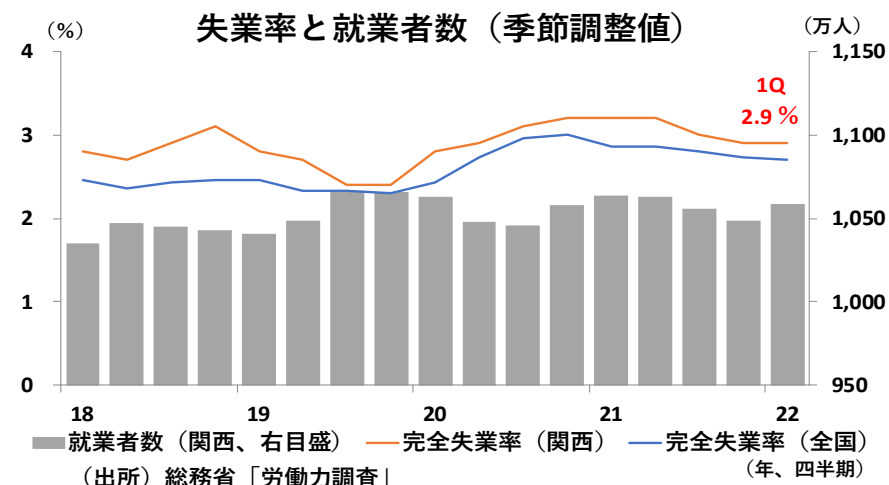


(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算

(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

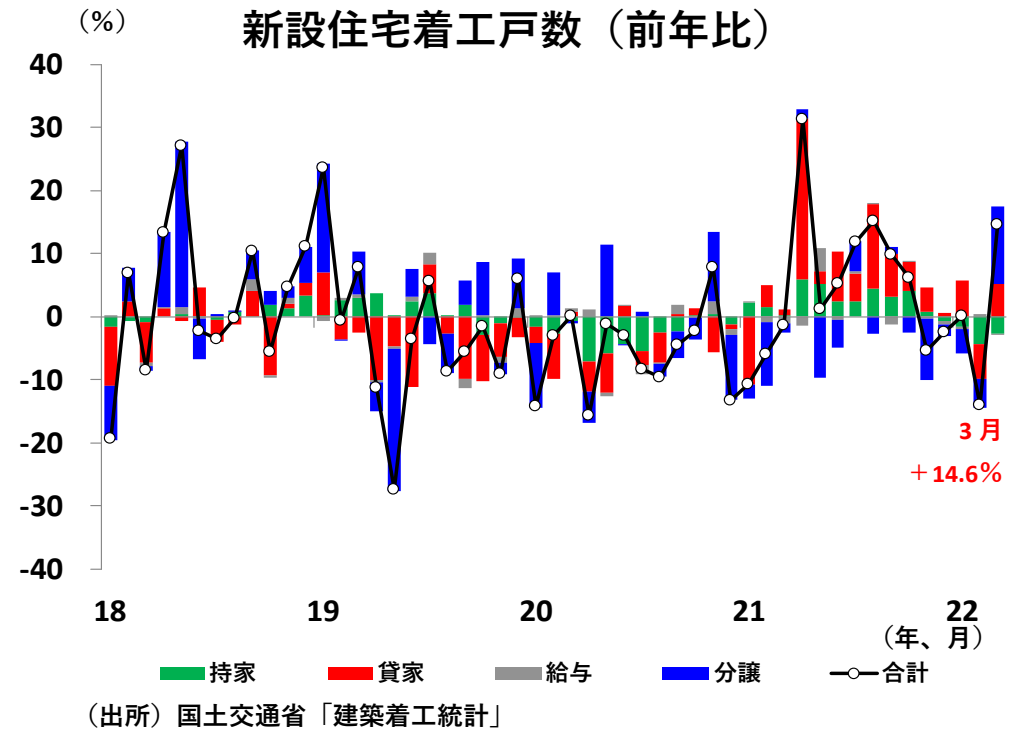
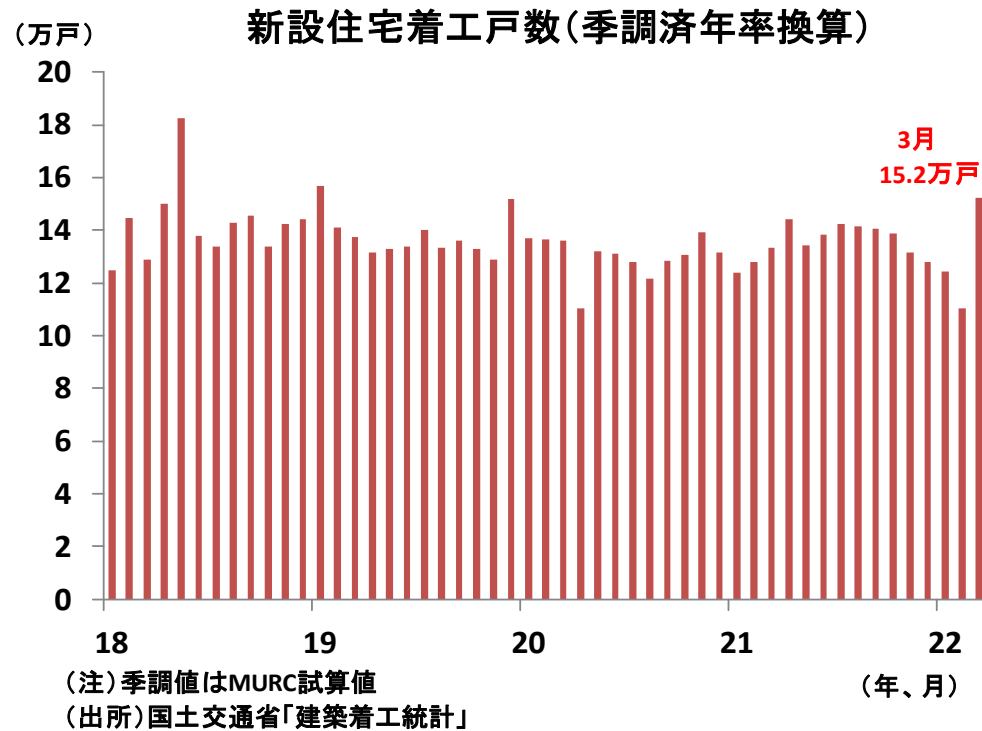


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



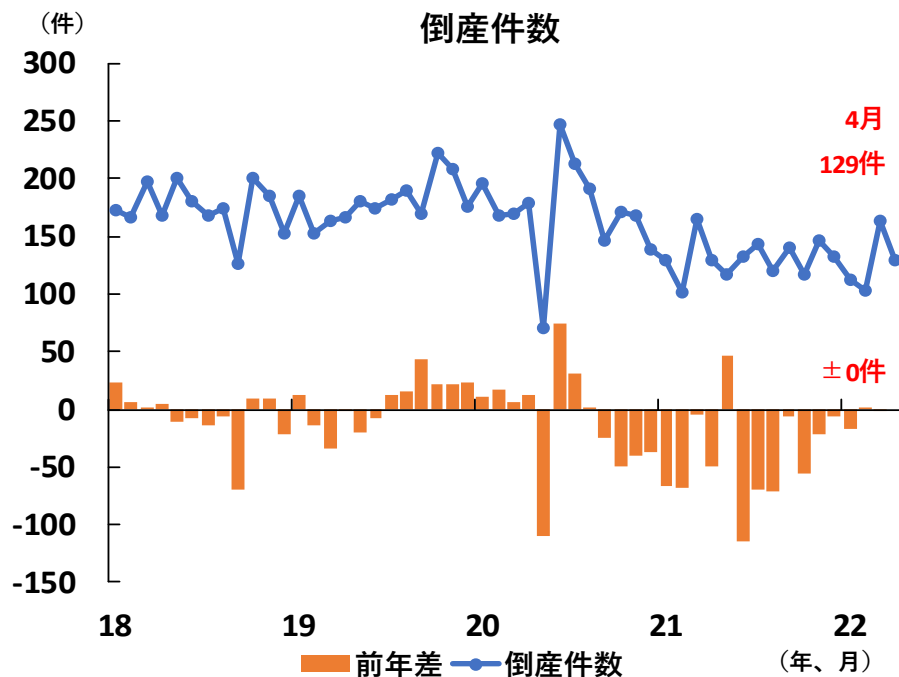
# 住宅投資

3月の住宅着工は季調・年率15.2万戸と大幅に増加した。前年比でも+14.6%と大幅増。貸家、分譲が増加した。大阪府の分譲マンションが大幅増となっており、大幅増は単月に留まる可能性がある。



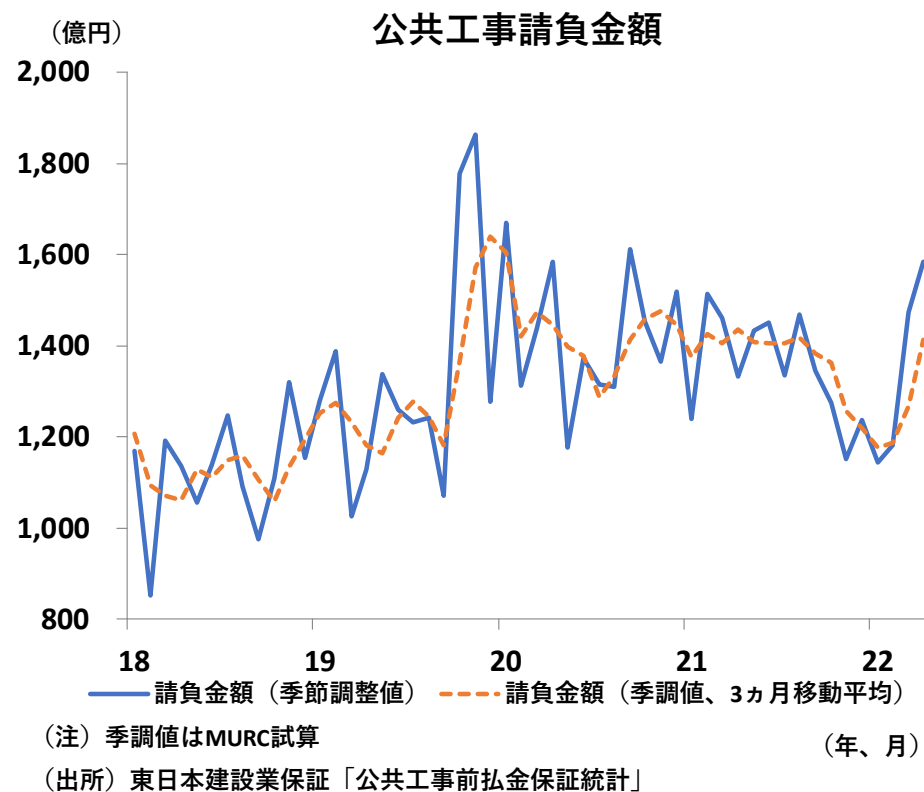
## 倒産

4月の倒産件数は129件と前年と同水準。引き続き低水準で推移している。



## 公共投資

4月の公共工事請負金額は、前年比+20.6%と増加した。



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください